

氏 名：松本 佐知子

学 位 の 種 類：博士（看護学）

学 位 記 番 号：甲第 206 号

学位授与年月日：2021 年 3 月 10 日

学位授与の要件：学位規則第 4 条第 1 項該当

論 文 審 査 委 員：主査 小山田 恭子（聖路加国際大学教授）

副査 麻原 きよみ（聖路加国際大学教授）

副査 亀井 智子（聖路加国際大学教授）

副査 若野 倫義（聖隷藤沢ウェルフェアタウン副園長）

論 文 題 目： A 有料老人ホームにおける“エンディングノート”を用いた Advance  
Care Planning プログラムの開発

#### 博士論文審査結果

本研究は、質の高いエンドオブライフケア提供のために、エンディングノートを用いた **Advance Care Planning Program** を実装するものであった。従来より使用されていたエンディングノートを改良し、入居者教育と職員面談等を組み込んだプログラムとして有料老人ホームで研究を行った。COVID-19 流行に伴う研究中断等により **QI** サイクルを 1 度しか実施できなかったことを踏まえて審査は行われた。

初回の審査(2020 年 12 月 21 日)では、結果について研究参加者が 7 名であり、1 クール分のデータしかないため、アウトカム指標ごとの集計では有益な情報が引き出せていないことが指摘され、参加者ごとのケーススタディの形式でアウトカム指標と参加者個人の背景や属性の影響を考察することとなった。また、プログラムのうち、「エンディングノート」に関する記述が大半で、入居者教育や職員面談等に関する記述が不十分であることが指摘された。考察についても、全体的に論述量が少なく、実装したプログラムを今後効果的に継続使用していくための検討がなされていないことが問題点として指摘された。併せて統計情報の示し方や APA 方式に基づく作図がなされていないことも指摘された。

以上のことから大幅な修正が求められたため、再審査を行うこととなった。再審査は 2021 年 2 月 2 日に行われた。結果をケーススタディの形にまとめ、面談に携わった職員の自己評価などもケースごとに比較できるように記述を修正したことで、プログラムの各要素が参加者個々人にもたらした影響が考察され、アウトカム指標の妥当性の検討も行われた。これらの考察に基づくプログラムの修正、および今後プログラムを継続

的に実践していくための方策等の記述も充実し、DNPプロジェクトの論文として十分な質を有していることが確認された。

以上により、本論文は、本学学位規程第 5 条に定める博士(看護学)の学位を授与することに値するものであり、申請者は看護学における研究活動を自立して行うことに必要な高度な研究能力と豊かな学識を有すると認め、論文審査ならびに最終試験に合格と判定する。